

こなん水辺公園ニュース

2013年3月号(通算第18号)

こなん水辺公園解説員グループ編集

春の目覚め

3月に入り少しだけ暖くなり、春を感じる季節がやってきました。

今年もこなん水辺公園を中心に、水辺の景色や生き物情報、イベント情報などを伝えて行きたいと思います。感想などが御座いましたら、事務局まで連絡ください。お待ちしております。

「混群」という言葉を知っていますか。シジュウカラのような小さな鳥は幾種類もいます。繁殖時期ではない秋から冬にかけて固まって群れを作ります。これが、「混群」です。

コガラ、エナガ、シジュウカラなど20羽近い数の集団が、公園西側のヤナギの枝に飛来し、忙しく動いていました(3月3日)。驚かすと逃げてしまうので、写真も撮らず、そっと眺めていました。春の訪れと同じ頃、鳥達も活発に動き出し、それぞれの産卵場所に移っていきます。

田んぼの近くに巣を作ったケリが、けたたましく鳴いていました。カラスもトビも追い払う力強いケリは、子育てが終わるまで鳴き続ける事でしょう。子育てはどの生き物でも大変なことなのです。

個性

管理棟の鉢の中に、ヒツジグサがあります。ヒツジグサはまだ芽を吹いていませんが、細い糸状の藻が見えます。一般に種子をつくる水生植物を水草と呼びますが、これは水草ではなく、接合孢子というものをつくる糸状藻類の仲間です。



それぞれの鉢の中には、小さな魚がいたり、サカマキガイがいたり、葉が生い茂り光が泥に届かず芽吹きが遅かったり、色々な個性が見られます。

解説員は、皆さんにこのような違いを説明し、より自然の不思議を知ってもらおう事も大切な仕事だと理解しています。

こなん水辺公園は、金沢市が運営する公園ですが、解説員の居る公園は多くありません。一緒に自然を楽しみませんか。

一枚の写真



公園の南側にハンノキがあります。数本並んでいて、牧歌的な原風景を感じさせます。

この木の下で面白い写真を撮りました。何が見えますか???

ザリガニの足

赤いザリガニのハサミが一個ありますね。頭や胴体は食べられ、足だけここに残っていました。園内には多くのザリガニが居て、動物達のエサになっています。

オニグルミ(クルミの実)

公園内にはクルミの木はありません。近くの川や堤防にはクルミがあります。おそらく、カラスか野ネズミが運んで来たのでしょうか。

ハンノキの花と種

松ぼっくりのような形をした黒い実がハンノキの実です。去年の実です。野ネズミや、アリのエサにもなります。黄色い虫のように見えるのが、ハンノキの花です。公園では一番早く咲く花かも知れません。

キノコ

よく見ると左側にシジミ貝のような物が見えます。木材腐朽菌と呼ばれるキノコの仲間です。カラスのいたずらで、上のほうに生えていたものが落ちてきた、と思います。

命の連鎖が一枚の写真で見られます。これが自然の姿です。

こなん水辺公園救援隊

園内にはたくさんの種類の草木があります。草木を紹介する看板も設置されていますが、種類は限られています。そこで、もっとたくさんの植物に興味を持ってもらえるようにしようと、救援隊では草木に名札をつける活動を始めました。

1月12日(土)には木に名札をつける活動を行いました。名札は手作りです。園内に自生しているオギやヨシの葉を利用してつくりました。文字は手書きです。



2月3日(日)には草に名札をつけていきました。こちらは小さな木の札です。黄色と白色の二種類の札を作りました。黄色は外来植物、白色は在来植物です。名札を付けていくと、黄色い札ばかり増えていきます。

園内には外来植物がとても多いことを、あらためて実感します。



木の名札も草の名札も、簡単に付け替えられるようになっています。これは名札が汚れたり、草が生える場所が変わったりしたときに、簡単に手入れや付け替えをできるようにするためです。

二日間の活動で付けられた名札は、園内全体の草木のごく一部です。活動は今後も行い、これまでにつけた名札の手入れなどと同時に、新たに名札をつける予定です。活動日は決まり次第、管理学習棟内の救援隊用ボードに掲示します。救援隊に入隊しなくても活動に参加することはできますので、興味のある方はどうぞお気軽にご参加ください。

救援隊参加申込み先：NPO法人河北潟湖沼研究所

FAX 076-255-6941

メール info@kahokugata.sakura.ne.jp

お名前、ご住所、FAX番号またはE-Mailアドレスをお知らせください。

スズメノカタビラ



この草の名前を知っている方は、そんなに多くないと思います。スズメノカタビラ(雀の帷子)と言います。

カタビラとは、浴衣のような衣服です。赤い鳥のヒットソングで「竹田の子守唄」の中に出てくる歌詞で、「帷子はなし帯はなし」というフレーズがあります。青春時代の思い出の曲ですが、意味を知ったのは数年前でした。

このスズメノカタビラは、世界で一番数の多い植物だと言われています。世界中に生えているようです。春に田お越しをする時、クワに一番引っかかる草がこれです。日本の種と外来の種があるようですが。私には区別が付きません。

どこにでもある雑草、名前を知れば好きになるかも知れません。

ノゼリ



この草は、食べられます。セリの野生種で、春から夏にかけて大きくなります。今は芽吹いたばかりで、落ち葉ほどの大きさしかありません。でも、口にするとセリの匂いと食感が伝わってきました。

季節にもよりますが、カラスノエンドウやハスの実なども食べられます。あまし知られてはいませんが、セイダカアワダチソウの新芽も食用になります。春から初夏にかけてどんどん伸びる新芽の部分を探って、つぶすと、ミントの香りが伝わってきます。葉っぱ5枚ほどの先端を摘み取り、軽く水洗いして、衣をつけて油で揚げるとおいしくいただけます。

オギの新芽も一部分ですが、竹の子のようになり、調理すると歯ごたえの良い食感が味わえます。

発行 2013年3月17日

制作 こなん水辺公園解説員グループ(NPO法人河北潟湖沼研究所内)

連絡先 〒929-0342 河北郡津幡町北中条ナ9-9 Tel.076-288-5803